

感染症発生動向調査 週間コメント

第35週 (R3.8.30～R3.9.5)

■今週のトピックス

今週(2021年第35週:8/30-9/5)は夏に多発する疾患中の手足口病は連続増加、ヘルパンギーナも少ないが連続増加している。RSウイルス感染症が再び増加している。感染性胃腸炎では食中毒原因細菌の報告が多い。

緊急事態宣言を7/12に東京都に4回目発令(東京都・沖縄県)、8/2に埼玉県・千葉県・神奈川県・大阪府、8/20に茨城県・栃木県・群馬県・静岡県・京都府・兵庫県・福岡県を、8/27に北海道・宮城県・岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県・岡山県・広島県を追加し計21都道府県。まん延防止等重点措置をR3.4/5に初適応、その後追加・中止・変更あり6/21に緊急事態宣言から福岡県等7都道府県が移行し計10都道府県、7/12に福岡県等は除かれ計4府県、8/2変更あり北海道・石川県・京都府・兵庫県・福岡県、8/8に追加8県で計13道府県、8/20に福岡県等の緊急事態への移行と追加10県、8/27に追加4県あり計20県。

病 名	定点報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	0	±0		0.00	0.00
RSウイルス感染症	184	116%	福岡153、北九州27	1.53	2.08
咽頭結膜熱	24	-14	福岡19、筑後3	0.20	0.14
A群溶連菌咽頭炎	136	111%	福岡110、筑後21	1.13	0.39
感染性胃腸炎	555	112%	福岡305、北九州123	4.63	2.07
水 痘	11	±0	筑後4、福岡4	0.09	0.08
手足口病	401	148%	福岡280、筑後84	3.34	0.48
伝染性紅斑	2	+1	筑豊1、筑後1	0.02	0.01
突発性発しん	97	120%	福岡53、北九州21	0.81	0.33
ヘルパンギーナ	60	176%	福岡48、筑後12	0.50	0.44
流行性耳下腺炎	2	-5	筑後1、福岡1	0.02	0.05
川崎病(MCLS)	1	-3	福岡1	0.01	
マイコプラズマ肺炎	1	±0	福岡1	0.01	0.03
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.02
無菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	-1		0.00	0.00
流行性角結膜炎	4	-3	福岡2、筑後1	0.15	0.23
性器クラミジア感染症	26	-13	福岡15、北九州5	0.70	
性器ヘルペス	6	-5	福岡4、筑豊1	0.16	
尖圭コンジローマ	3	-1	福岡2、筑後1	0.08	
淋菌感染症	7	-9	福岡5、筑後1	0.19	

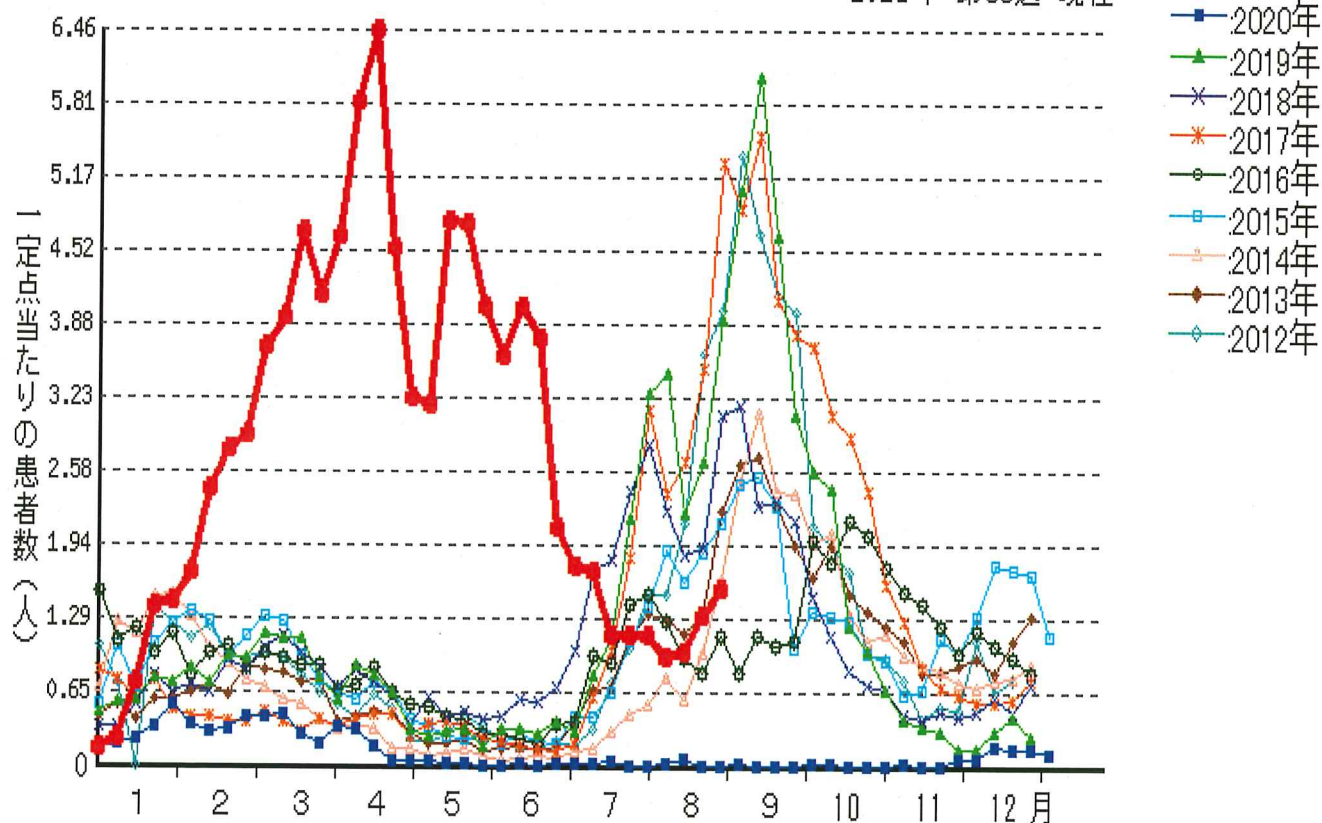
※ 全数報告疾病 34週(定点報告数は35週分)

病 名	定点報告数	全数報告数(累計)	主な報告地区等	全国報告数(累計)
百日咳	2	1(21)	福岡1	9(405)
風しん	0	0(0)		1(8)
麻疹	0	0(1)		0(3)
梅毒	1	2(200)	北九州2	81(4525)

全国情報は令和3年34週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎13、クラミジア肺炎1例。
令和3年34週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核10096(県内541)、新型コロナウイルス1026(今週46、県内0)、コレラ0、細菌性赤痢7(県内0)、腸管出血性大腸菌感染症1914(今週116、県内今週20、計115)、腸チフス0(県内0)、パラチフス0、E型肝炎304、A型肝炎47(今週1、県内2)、オウム病7、ジカウイルス感染症0、SFTS85(県内3)、チクングニア熱0、つつが虫病136、デング熱4(県内0)、日本紅斑熱254、急性弛緩性麻痺13(今週0、県内0)、日本脳炎0(県内0)、マラリア14(県内0)、レジオネラ症1209、アメーバ赤痢349、ウイルス性肝炎123(県内4)、急性脳炎225(県内14)、クロイツフェルト・ヤコブ病113、劇症型溶連菌感染症389(県内19)、後天性免疫不全症候群675(県内39)、侵襲性インフルエンザ菌感染症132(県内10)、侵襲性髄膜炎菌感染症2、侵襲性肺炎球菌感染症906(県内50)、水痘(入院)176(県内9)、先天性風しん症候群1。1類感染症の報告はない。

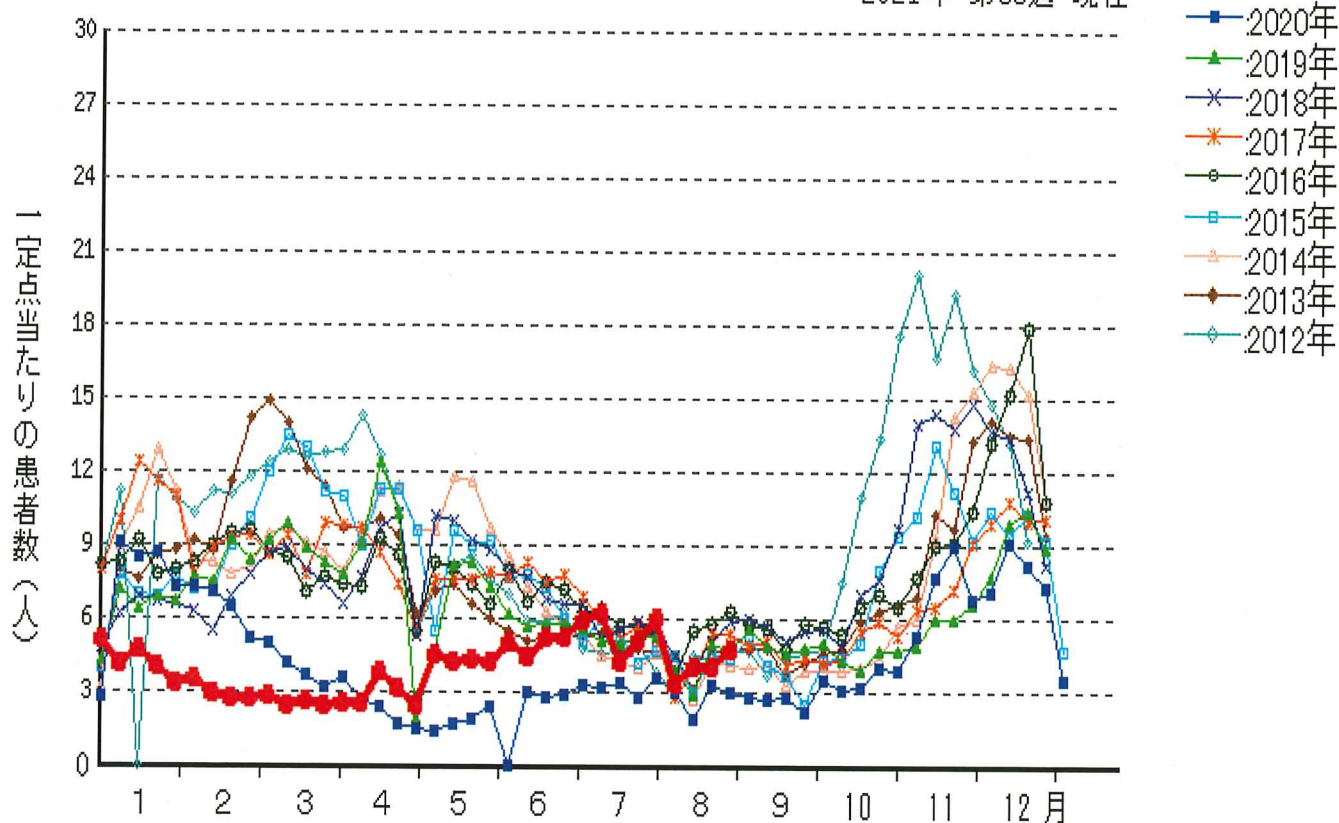
■RSウイルス感染症（福岡県全域）

2021年 第35週 現在



■感染性胃腸炎（福岡県全域）

2021年 第35週 現在

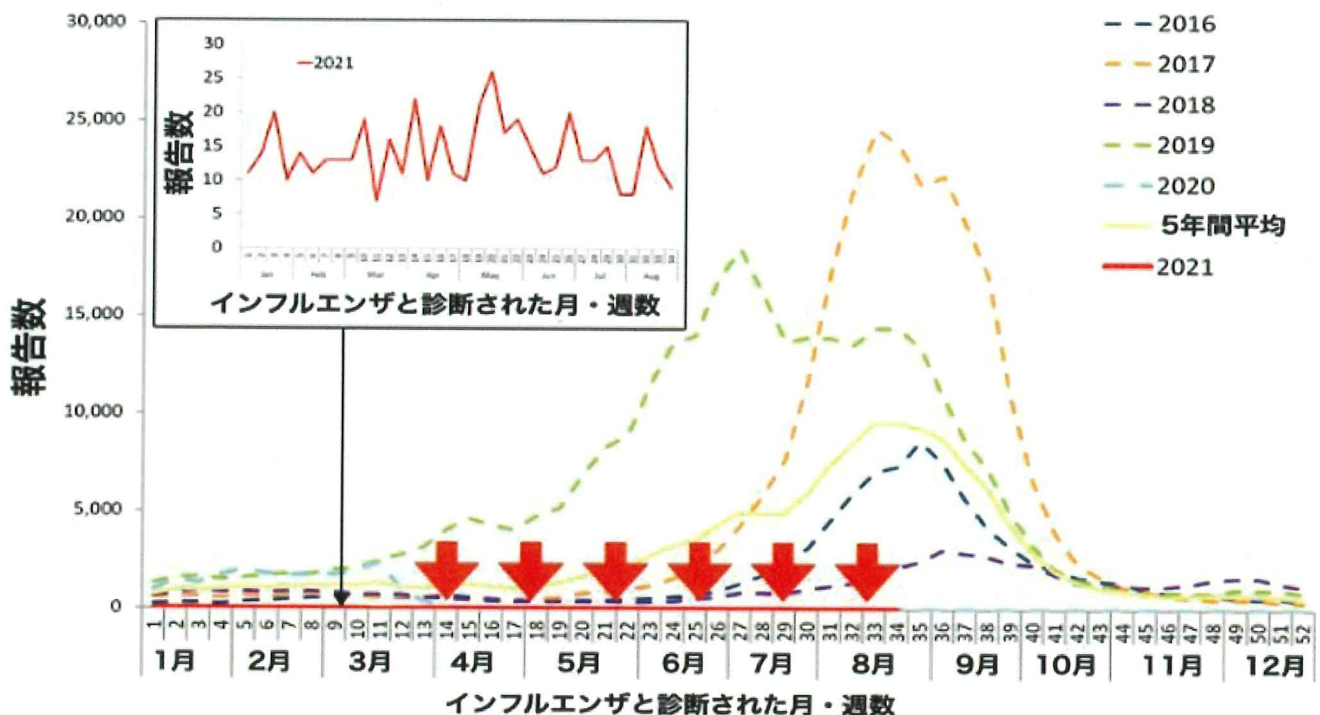
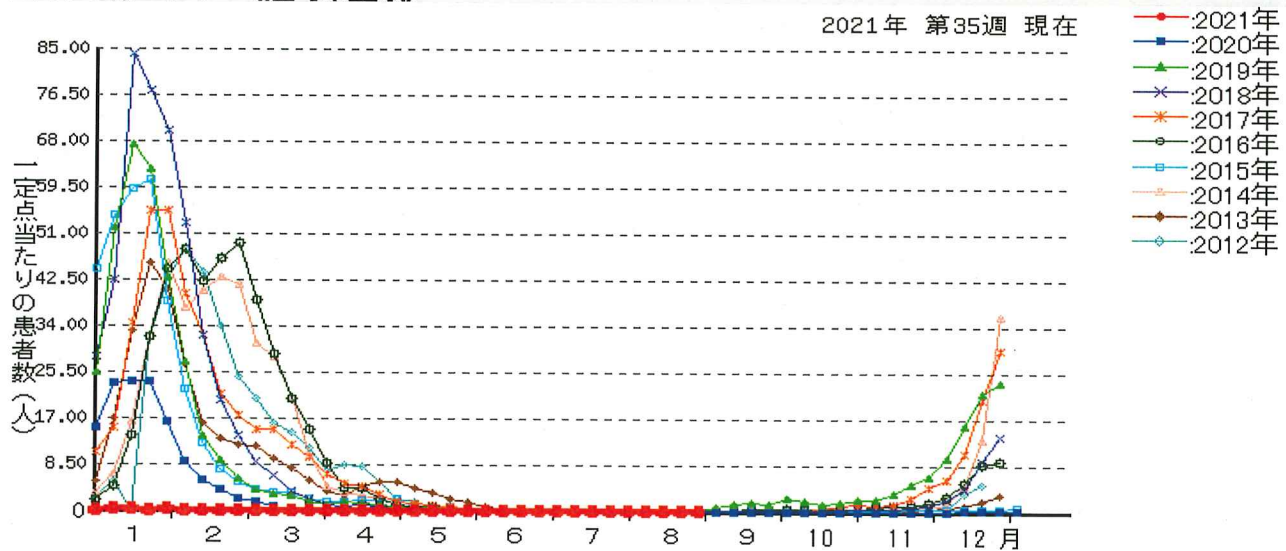


過去16シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数が基準値をこえた週・基準値を下回る前の週

福岡	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013	2013-2014	2014-2015	2015-2016	2016-2017	2017-2018	2018-2019	2019-2020	2020-2021	2021-2022
流行開始(1.0)	3	51	50	33	50	52	50	51	49	1	46	44	48	37	-	-
注意報(10.0)	6	4	2	40	1	3	2	3	51	3	1	50	52	50	-	-
警報(30.0)	8	-	4	42	3	4	3	4	52	4	3	2	2	-	-	-
最大値(週)	60.03(11)	20.35(8)	44.28(4)	63.62(48)	48.97(3)	48.03(6)	45.84(4)	45.57(5)	60.72(4)	49.16(9)	55.10(4)	83.99(3)	67.18(3)	23.56(52)	0.04(51)	-
30を越した週数	5	-	3	9	9	5	3	7	6	7	5	6	4	-	-	-
30	12	-	6	50	11	8	5	10	5	10	7	7	5	-	-	-
10	14	11	12	53	15	13	10	13	7	13	12	9	7	8	-	-
1	18	16	19	8	20	19	22	18	18	18	20	14	13	14	-	-

全国	2006-2007	2007-2008	2008-2009	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013	2013-2014	2014-2015	2015-2016	2016-2017	2017-2018	2018-2019	2019-2020	2020-2021	2021-2022
流行開始(1.0)	3	47	49	33	50	49	50	51	48	1	48	47	49	45	-	-
注意報(10.0)	7	4	2	41	2	3	2	3	51	3	1	51	52	50	-	-
警報(30.0)	11	-	4	44	4	4	4	5	2	6	4	3	2	-	-	-
最大値(週)	32.95(11)	17.7(5)	37.48(4)	39.66(48)	31.88(4)	42.62(5)	36.44(4)	34.44(5)	39.42(4)	39.97(6)	39.41(4)	54.33(5)	57.09(4)	23.24(52)	0.02(5)	-

■インフルエンザ (福岡県全域)



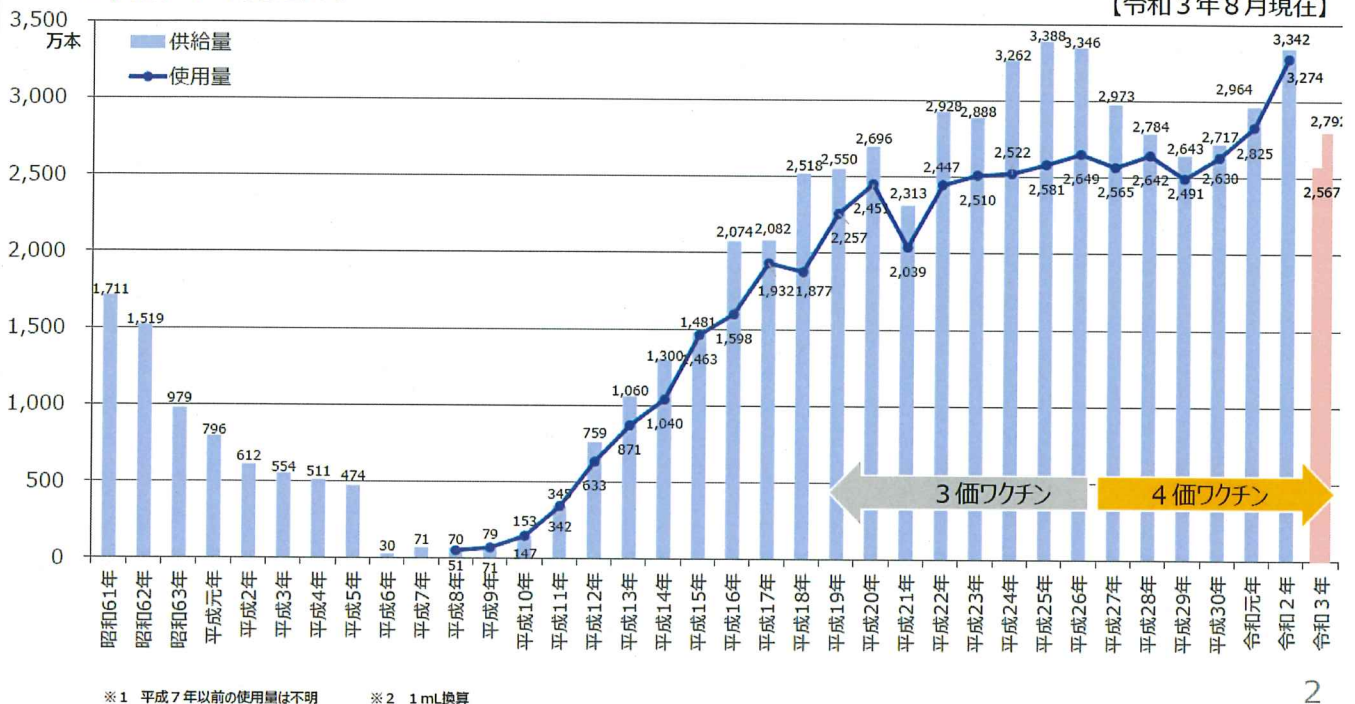
オーストラリアでのインフルエンザ流行状況 (オーストラリア保健省、インフルエンザサーベイランスレポート11号より)

2021/22シーズンのインフルエンザワクチンの供給量の見込み 別紙1

2021/9/1第26回厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会）資料

- 今年度のインフルエンザワクチンは、製造効率等が特に良かった昨年度とは異なり、例年と同程度の製造効率等である。
- 平成8年以降で最大となった昨年の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度は供給される見込み。

【令和3年8月現在】

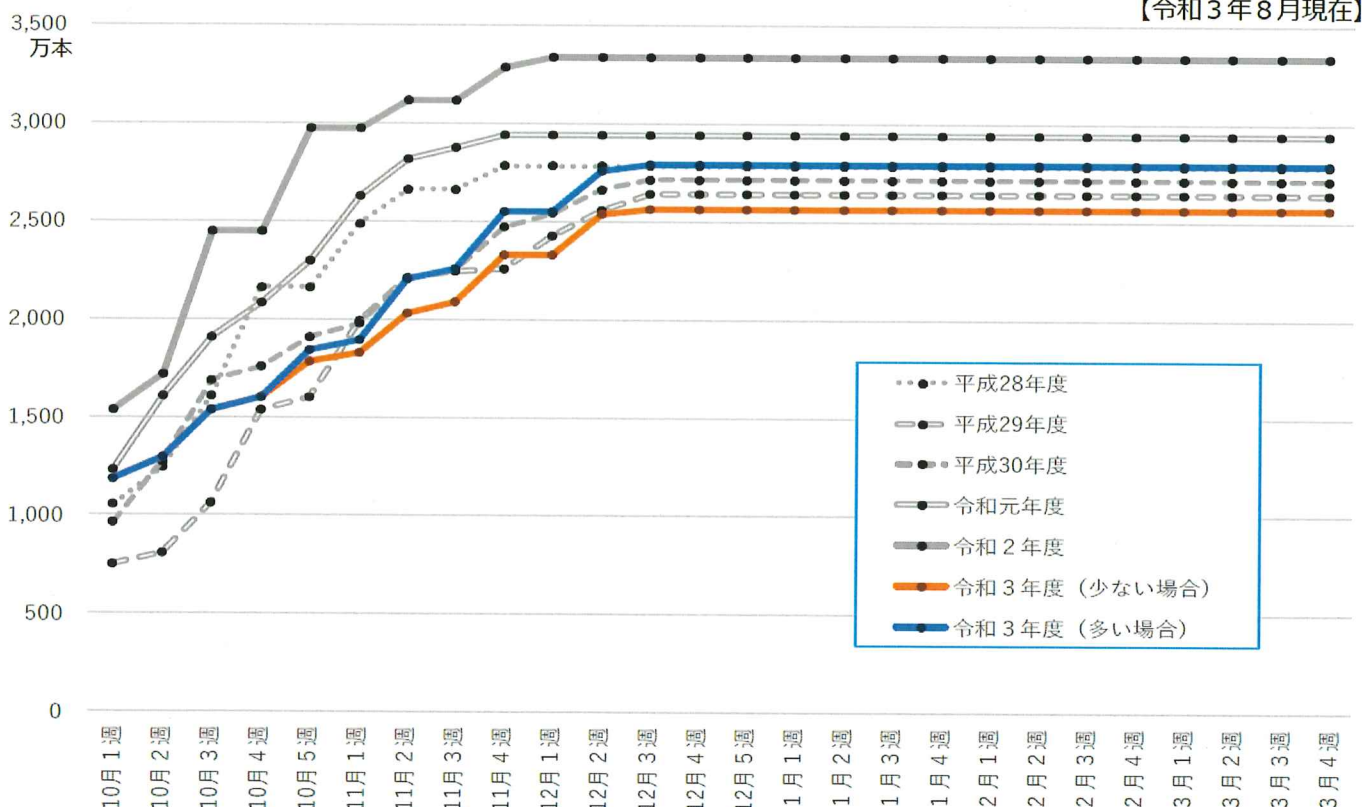


2

2021/22シーズンにおけるインフルエンザワクチンの供給（週次） 別紙2

2021/9/1第26回厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会）資料

【令和3年8月現在】



注1) 供給量は、いずれも1mL換算。 注2) 週の表示は金曜日を基準としている。

注3) 令和3年8月現在でワクチン製造は完了していないため、製造効率の変動等に一定の仮定を置いて供給量及び供給時期を算出。

3